

春の彼岸によせて

平成十四年三月 大乘寺 住職 岡 光俊

先代住職、故岡弁有上人おかべんゆうしやうじん在職中は、檀信徒の皆さまがたには大乘寺維持興隆のために、一方ひとかたならぬご厚情ご協力ご支援賜りましたこと、ここに深く御礼と感謝を申し上げる次第でございます。

先代は福井県越の村より体一つで奈良の壺坂の寺に小僧にで、厳しい修行を重ね、京都に縁頂き立命館大学法科を卒業、政治にも身を置いたこともあり、知恩院、清浄華院の役員をしながら、多くの寺院復興に、また自坊である寺町光明寺の中興に、大乘寺開山隆昌に生涯を捧げて参りました。

その五〇年のあいだ、幸いに私は、何時なんどきも先代と共に同じ時間を過ごさせて頂きました。幼い頃はスクーターのうしろに乗って檀家さまのところへ、私が運転免許を取ってからは、どこへ行くにも、お抱え運転手として動かさせて頂きました。一九七〇年大阪万博を期に光明寺の新館建設を目指し、毎日大乘寺でのスポーツ、音楽関係の合宿、コンパに走り回り、苦情を聞きながら、資金調達に奔走しました。新館の設計デザインの打ち合わせを毎日のようにさせて頂き、檀信徒の多大な協力のお陰で光明寺新館落慶の日を無事迎えさせて頂きました。

この頃、先代は開宗八百年事業局長の重責を本山より預かっておりましたので、本山に詰めており、寺院のこと、コンパ、合宿の申し込み、問い合わせ、打ち合わせ、食事の手配、寝具の移動積み替え等、すべての総括マネージを私がさせて頂きました。その甲斐あって昭和六十二年大乘寺新築工事が始められるご縁を賜りました。寺の前に佛さまを安置させて頂く家を一軒貸して下さったかた、これからのお寺のありかたを図面に現して頂いた設計事務所のかたや、それを形にして下さった現場監督のかたなど、目には見えない素晴らしく大きなよき御縁に支えられ、無事落慶の日を迎えることができました。そのあいだも時間を作り、私も清浄華院の寺務と一緒にお手伝いさせて頂き、多くの貴重な体験をさせて頂きました。

七五才のときには、いきたいと何時いつも口にしておりました、壺坂の縁を辿り、小僧時代を過ごしたお寺を母と三人で車で廻らせて頂きました。懐かしい、もうくることはない、これが最後だといいなから、一つ一つ思い出を辿り、思いを口にし、目に焼きつけておきたいとの姿、人の生かされゆく縁の広さ奥深さを見させて頂いた気がしました。

長年乗っておりました車の運転は、自分が乗っていった車の置き忘れが始まったときに、これ以上続けて人さまにご迷惑がかかってはと危惧し、車がなくなったことにさせ頂きました。硬膜下血腫があつてからは急に体力が落ち、出歩くことも少なくなりました。

先日私が書きとめていた父の介護記録を見つけましたので、少し紹介させ頂きます。亡くなる丁度一年前の頃のものです。

平成十二年十月三十日。父、今日は午後三時に寺務所にできてきただけ、体調崩し殆ど寝ていた。夕食時起きてきたが食欲なし、ビールのみ。

十月三十一日。父ずっと寝たきりになる。目眩めまいを訴える。少し頭が熱い、寒気はないという。体温三十六度少々、水も何も口にしない。父母とも昼食食さず。医師に往診きて頂く。血圧七〇と一二〇、脈拍も正常、健康そのものと診断。食していないので栄養剤の注射を受ける。

十一月一日。脱水症状が起こらないようビールを促すが、家内が作った味噌汁だけ少し口にする。煮物に手を出す元気はなし。

十一月三日。家内に、柔らかめのおにぎりおにぎりで食欲がでるのではと作らす。おにぎりおにぎりとビール一杯飲める。夕食、秋刀魚一人前、ジャガイモの煮物、大根おろし、お粥を美味しい美味しいと食して頂く。

十一月四日。カボチャ柔らかめに煮る。ビールも一缶、普通に近い食欲に戻って頂けた。ここにきて十月二十九日に佛前にお供えの

柿を、食べ過ぎて食あたりを起こしていたことが解る。

我儘わがまま放題や理不尽なことをいわれても、両親に何時いつも思う存分楽しく孝を尽くさせて頂けたのは、一切のことを他人に委ねることなかれ、とお釋迦さまがお説きになられた父母恩重經との出会いがあつたからです。そしてお経の通り、実行させて頂けたのは、家内の、親第一の考えがあつたからこそです。二〇数年間、子供たち、若い者とは別に、両親に最も合つた食事と時間を作り続けてくれた家内の心と今更ながら感謝するところです。老いれば老いるほど、体が動かなくなればなるほど、なによりの楽しみは食事だと教えて頂きました。何時いつも炊きたてのご飯、温かいお味噌汁、好物の煮魚、お芋やカボチャの煮物、新鮮な伊勢の海苔、和歌山の梅、それらを美味しい美味しいと食べて頂きました。

親第一、先祖第一のお釋迦さまの教えを実行させ頂き、初めて悟らせ頂くことばかりでございました。仕事第二、趣味遊び今世は必要なしと悟らせ頂いたことです。そのような習慣があつたればこそ、他界しあとの四十九日のあいだも、朝夕の靈膳を一日も欠かすことなく自然にさせ頂きました。私たち夫婦は、父が、最後まで身をもつて佛さまの教えを諭して頂いた偉大な師匠であつたと、感謝しています。

毎日、今あることの有り難さをご先祖御守護尊神さまに感謝し、親を慕い、尊敬し感謝して孝を尽くすことで、人として最も尊い豊かな心とさせて頂き、諸々の欲から離れさせて頂き、楽しい明るい日々を賜ることが許されるのだと悟らせ頂いた次第です。

欲に惚けた心は、欲に取り囲まれて落ち行く方法しか見えていないことを、昨今の報道が教えているように、欲の人はそれが正しいと見えるのです。清らかな、欲から離れた心にならせて頂いて初めて、正しい物の見方を与えて頂けるものです。

春の彼岸、人として何が最も大切か。欲に惚けた心で考えるのではなく、清らかな佛さまの教えをしつかり身に頂いた心で、静かに

考えてみるときが人類にはきているのではないでしようか。三千年前より人類の愚かさ^がと尊さを説き明かすお経を、今誰もが手にする時期ではないでしようか。

合掌